

ウズベキスタン及びウズベキスタンの日本語教育の紹介

ジュマエフ・ラヒモナリ

タシケント国立法科大学・名古屋大学日本法教育研究センター

shinji0222kun@yahoo.co.jp

(ウズベキスタンの簡単な紹介・スライドで映す)

ウズベキスタンは中央アジアにある共和国で、国土はアラル海からパミール高原の間に横たわり、西部、中央部はキジルクム砂漠やステップ地帯、東部・南部はフェルガナ盆地とパミール高原などの山脈地帯であります。ウズベキスタン共和国は1991年に独立しました。総面積は44万7400平方キロメートルであります。国民の7割強を含めるウズベク人のほか、ロシア人、タジク人、カザフ人等の多民族の国であります。首都はタシケントで、ヨーロッパ・アジア・中東の各都市から便が頻発しています。日本からは関西国際空港から直行便が飛んでいるほか、成田からは関空若しくはソウルでの乗り継ぎが一般的です。

ウズベキスタンの気候についてですが、年間降雨日数が約30日と少ないため、湿度が低く、晴れ間が多いのが特徴です。ベストシーズンは、花が咲き誇る春(3～5月)、紅葉の美しい秋(9～11月)です。

ウズベク人の中では、イスラム教スンニ派が信仰されています。他、イスラム教シーア派、キリスト教徒も多いです。

かつての中国とローマを結ぶシルクロードの中心地に位置していたウズベキスタンが独自の文化、国世紀古い歴史、豊かな自然、古代建築モニュメント、国家の伝統や特別な料理と観光客を惹きつけている。歴史的で有名な町はサマルカンド、ブハラ、フェルガナ、タシケントなどで、春と秋に多くの観光客が訪れます。

(ウズベキスタンにおける日本語教育について・各機関の写真をスライドで映して)

ウズベキスタンで行われている日本語教育の現状について発表させていただきます。

ウズベキスタンの以下の機関で日本語教育が行われています。

- ・ウズベキスタン世界経済外交大学
- ・世界言語大学
- ・タシケント国立法科大学
- ・タシケント東洋学大学
- ・タシケント国立経済大学
- ・ウズベキスタン・日本人材開発センター

- ・サマルカンド外国語大学
- ・フェルガナのりこ学級
- ・タシケント国立東洋学大学附属リセイー

現在様々な機関で日本語を勉強している学生の人数は約 2000 人ぐらいです。

それぞれの機関に JICA から派遣されている日本人のボランティアの先生がいて、日本語、日本史、社会学、日本文化などを教えています。

私は 2008 年 8 月から現在までタシケント国立法科大学・名古屋大学日本法教育研究センターに日本語教師として勤めています。以下にそのセンターについて紹介させていただきます。

ウズベキスタン日本法教育研究センターは 2005 年 9 月にウズベキスタンの首都であるタシケントで創立されました。こちらのスライドにありますのは、タシケント国立法科大学です。この建物の 3 階にウズベキスタン日本法センターが設けられました。現在日本法センターに 31 名の学生が在籍しています。センターに 7 名の教員が務めています。教育期間は 4 年間です。

日本法センターには法科大学の 1 年生のみ入学する機会があります。新入生は大学の専門科目と並行してセンターの日本語科目を受けることになっています。こちらは 2012 年度後期の 1 年生の時間割です。日本語科目は週 5 回、1 日に 2 コマ実施されています。1 コマは 60 分です。

(1 日 2 コマは全学年共通の時間割です。) 1 年生のメインテキストは『みんなの日本語』です。今年度より改訂版を使用しています。みんなの日本語と並びに、作文を書いてもらう際にセンター作成テキスト、漢字力や聴解力を身につけてもらうために、BKB と『みんなの日本語』の副教材である「聴解タスク」を使用しています。

今年度の新入生に JICA ボランティアの平井美里講師と私が日本語を教えています。

こちらは二人の授業の様子です。

日本法センターでは今年度より技能別の授業に切り替えましたので、2 年生は「漢字」、「読解」、「聴解」、「文法」、「作文」、と「日本史・公民」の授業を受けています。これらの授業の教材はスライドの通りです。しかし、2011 年度生は 1 年生のうちに『みんなの日本語』を終了しませんでしたので、技能別の授業に切り替わったのは 10 月半ば頃からです。

この学年の担任はツルスンバエフ・アリシエル講師です。主に「文法」と「作文」の授業を担当しています。また、非常勤の近藤佳子講師と私ラヒモナリがそれぞれ「読解・聴解」と「漢字」の時間を担当しています。2 年生の時点でセンター生は日本語と並行して「日本史・公民」の授業を受けることになっています。今年度はこの授業を JICA シニアボランティア津隈文明講師が担任のツルスンバエフ・アリシエル講師とともに担当しています。

3 学年目に日本語の時間が減り、日本法や学年論文が主となってきます。3 年生の受講科目とその教材はスライドの通りです。最後にありますのは、「世界史」です。この授業は今年の 1 月に帰国した JICA シニアボランティア 加藤文子講師 の下で企画されました。

3 学年の担任は日本法センターの特任講師桜井ちよこがしています。また、非常勤の近藤佳子講師、津隈講師、小川講師とスサンナがそれぞれの科目を教えています。

4 年生は「日本語総合」、「クローズアップ現代」、「日本法」と「現代史」という4つの科目を受講しています。現代史は後期より前期の「研究計画」の時間を利用して開講しました。この学年の担任は私がしております。そして、桜井講師、津隈講師と小川講師らはそれぞれの科目を担当しています。

日本法センターでは、週1回実施される運営会議のほかに、どの学年も1時間程度の学年会議を行います。また、「日本史・公民」や「クローズアップ現代」の打ち合わせも週1回行っています。

センター生は発表の始めに申しましたように、大学と日本法センターの勉強を両立しなければなりません。センターの時間割は専門科目の時間割を参考にして、時間が重ならないように作成されています。センターと大学は相互に協力する姿勢であります。法科大学学生を対象に実施されたウズベク語訳付きのスクーリングは協力的な関係の成果の一つだと言えます。

また、センターの活動には大事な役割を果たしているのが JICA によって派遣されるボランティアの方々です。現在2名センターに派遣されています。お二人は授業を担当してもらっている他に、他機関に派遣されているボランティアの協力を得て日本の文化に触れてもらう教室を開講することもあります。

センターの成績は単位化されませんので、自主的にセンターを退学した若しくは除籍の対象となった学生は大学の専門の勉強を続けられます。一方、単位化されないことで学習者の負担が大きく、2つの学校に通っているような形になっています。学習者の中で地方出身者が多く、寮に住んでおり食事や洗濯、その他の家事はすべて一人でこなすことになっています。

現在、ウズベキスタン日本法センターでは問題となっているのが3年生の学年論文です。今年度は現地に日本法講師がおらず、スカイプで遠隔授業を行うことにしていますが、学年論文執筆にはそれが十分だと言えませんので、センターの終了生の力を借りるようにしています。しかし、学生はやはり落ち着かない様子です。

ウズベキスタン人日本語学習者の卒業後の進路についてですが、多くの人が日本語教師、ガイド等の仕事をしています。しかし日経企業がほとんどないため、それ以外の仕事を見つけるのは非常に困難です。

ご清聴ありがとうございました。

